
新世紀エヴァンゲリオン

S2機関

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

新世紀エヴァンゲリオン

【Nコード】

N9862X

【作者名】

S2 機関

【あらすじ】

もし自分がエヴァの世界に入って使徒と戦う事になったらという妄想一度考えた事あるだろうか この小説ではそれが現実になるのです

テレビ版本編とオリジナル版を加えてお送りします

設定キャラ紹介

設定

この物語はテレビ版をベースに（25 26を除く一部オリジナル）
進行して行きます 原作と異なる点は 第1話でオリキャラがエヴ
アの世界に迷いこむ事です あと作中でゲンドウと冬月が突然行方
不明になって新たな司令と福司令が登場します（ちなみにこれもシ
ナリオの一つという設定です）

キャラ紹介（順次更新して行きます）
初期オリキャラ

中島リン（14）
現実世界からエヴァの世界に来た女子中学生

中島スズナ（15）
リンの姉でエヴァの世界に来て（ネタバレ）3号機のテストパイロ
ットになる

補足

この作品は新劇ヴァージョンではありませんか真希波も登場します
あと

霧島マナも登場します
加時の登場シーンを新劇版にします
アスカの場合はTV版で行きます そこでは加時ではなくオリキャラ
を登場させる予定です

登場エヴァ（順次更新していきます）

エヴァンゲリオン試験初号機

エヴァンゲリオン試作零号機

エヴァンゲリオン正規実用型2号機

（先行量産機）

エヴァンゲリオン正規実用型3号機

エヴァンゲリオン次世代試験4号機（S2機関搭載ヴァージョン）

エヴァンゲリオン次世代型4号機（稼動時間が3分増えたヴァージョン）
通称改（オリエヴァ）カラーリング ホワイト

エヴァンゲリオン仮設5号機

エヴァンゲリオン正規実用型6号機^{オリエヴァ}カラーリング イエロー

エヴァンゲリオン正規実用型7号機^{オリエヴァ}カラーリング グリーン

エヴァンゲリオン1号機（量産型）

エヴァンゲリオン2号機（量産型）

エヴァンゲリオン3号機（量産型）

エヴァンゲリオン4号機（量産型）

エヴァンゲリオン5号機（量産型）

エヴァンゲリオン6号機（量産型）

エヴァンゲリオン7号機（量産型）

エヴァンゲリオン8号機（量産型）

エヴァンゲリオン9号機（量産型）

ここで各オリエヴァの搭乗者紹介

エヴァ7号機 中島リン

エヴァ6号機 洞木ヒカリ

エヴァ4号機S2 霧島マナ

エヴァ4号機改 鈴原トウジ

初号機

第3の使徒サキエルを倒し葛城邸があるコンフォートマンションに向かう

シンジとミサト途中路上で倒れてる少女を発見する

シンジ「ミサトさん誰か倒れてるよ」ミサト「ほんと？」
シンジ「ほら」

シンジ「助けなくちゃ」
車をわきに止めるミサト
そしてシンジが少女の所へ行く

シンジ「大丈夫？」
ミサト「どうやら脱水症状のようね」
ミサト「とりあいずうちに運びましょう」

コンフォートマンション

葛城邸

リン「ここは？」

シンジ「やっときずいた　ちよつと待つてね　ミサトさーん」

ミサト「もう大丈夫？」

リン「ええ」

ミサト「なんであそこに倒れていたの？」

リン「わかりません　ただ」

シンジ「ただ？」

リン「朝学校へ行く時に怪しい光に包まれて目が覚めたら」

ミサト「もしかしたら　あなたの出身は？」

リン「千葉県船橋市です」

ミサト「千葉県はセカンドインパクトで水没したのよ」

リン「セカンドインパクト？どこかで聞いた事があるような…」
ミサト「リンちゃんあなたは平行世界の人間ね」

シンジ「なんですその平行世界って」ミサト「地球にはたくさんの時間があるの例えばセカンドインパクトが起きなかった地球と起きた地球エヴァが存在しない地球と色々あるの」

シンジ「そうなんですか」

リン「私はどうすればいいですか」

ミサト「戻の世界に戻る保証はないからとりあいずうちに住むって言うのはどお」

リン「いいんですか？」

ミサト「いいのよ」

リン「一つ条件を出していいですか？」

ミサト「条件？」

リン「私をフォースチルドレンとしてネルフに迎え入ってもらふ事です」

考え込むミサト

シンジ「なんでネルフの事しってるの？」

リン「わ 私の世界はエヴァはTVアニメでしか存在しないのよ」

シンジ「へ」

ミサト「わかったわ」

リン「ありがとうございます」

ミサト「でも乗るエヴァがないわよ」リン「大丈夫ですシンジ君の初号機を使います」

ミサト「…」

シンジ「でも父さんの許可は？」

ミサト「なんとか説得してみるわ」

こうしてリンとシンジの新しい生活が始まるのであった
つづく

2号機

2日後

シンジ「学校ですか」

ミサト「そうよ」

リン「まさか私も!？」

ミサト「ええちゃんとフォースチルドレンとして認められたんだから」

シンジ「学校はいつから？」

ミサト「今日からよ」

急いで学校へ行く二人

学校で

ケンスケ「きいたか？」

トウジ「なにを？」

ケンスケ「今日転校生が来るって話しだぜ」

トウジ「まだ親父のデータをみたのか」

ケンスケ「まあね」

担任が入って来る

ヒカリ「きりつ れい 着席」

担任「今日は転校生を紹介する」

シンジ「シンジです第2東京から来ました宜しくお願いします」

担任「次中島リン自己紹介を」

リン「中島リンです 宜しくお願いします!」

男子生徒がリンを見て騒ぐ

昼休み

トウジ「すまんな転校生 わいはお前を殴らないと行かん殴らない
ときが済まないのや」

ケンスケ「ごめんね あいつの妹さんこの間の騒ぎで大怪我しちゃ
ってまそっという事だからさ」

シンジ「僕だつて乗りたくて乗っているわけじゃないのに」

その声が聞こえたか知らないがトウジが戻ってくる

それでもう一度殴る

つづく

3号機

ネルフ本部休憩室内

リツコ「そういえばシンジ君転校早々クラスメイトに殴られたそうじゃない

パイロットのセキュリティは大丈夫なの？

ミサト「情報部の監視システムには問題ないわ対した怪我じゃなさそうだしそれにプライベートには感触しない方がいいもの」

リツコ「一緒に住んでるのに？　じゃフォースのリンはどう？」

ミサト「リンの方は別に問題ないわしっかりしているし」

リツコ「話し変わるけど彼女の機体来週届くそうよ」

ミサト「そう」

ネルフ本部中央司令部

青葉「目標確認モニターに映します」リツコ「間違いない第4の使徒！」

青葉「委員会からエヴァンゲリオンの出撃要請が出ていますか……」

ミサト「うるさい奴らね言わなくても出撃させるのに……」

シエルター内

ケンスケ「まただ」

トウジ「まだ文字だけかいな？」

ケンスケ「報道規制つてやつだよ僕ら民間人には見せてくれないんだこんなビッグイベントだって言うのに」

ケンスケ「ねえちょっと2人で話しがあるんだけどねえ」

トウジ「ほんま自分勝手な奴だな」

トウジ「委員長」

ヒカリ「何？」

トウジ「わしら2人便所や」

ヒカリ「もうちゃんと済ませておきなさいよ」

トイレ内

トウジ「なんや？」

ケンスケ「転校生の兵器見たくないか？」

トウジ「まさかお前」

ケンスケ「頼むよロック外すの手伝ってよ」

トウジ「わかったよ」

再びネルフ

ミサト「いいシンジ君練習通りにやって」

シンジ「はい」

リツコ「ガドリングの一斉射撃練習通行に行って」

シンジ「はい」

ミサト「リンはシンジ君のバックアップいいわね」

リン「はい」

ミサト「発進！」

つづく

ちよつと番外編1 「ゲンドウ風邪を引く」(前書き)

いきなり番外編でごめんなさい!!

ちょっと番外編1 「ゲンドウ風邪を引く」

ゼーレ01「いかり君最近の君は少し風邪気味じゃないのかな」

ゲンドウ「冬月にも言われます」

ゼーレ02「早く直してくれたまえよ」

ゲンドウ「わかっております」

電気が落ちる音

冬月「そういえばあの時のユイ君も風邪を引いていたな」

18年前 京都

ユイ「冬月先生」

冬月「ユイ君風邪を引いてるみたいだかもしかしてインフルエンザか？」

ユイ「違いますよただの風邪です」

冬月「風邪を甘く見たらいかん」

ユイ「わかってますよ」

冬月「今日は念のため帰った方がいい」

ユイ「いいんですか」

冬月「今日は寒くなるって言ってたからな」

ユイ「お言葉に甘えて…」

冬月「しかし今度は君が風邪を引くとはな」

ゲンドウ「ああ」

その後ネルフ内の病棟に行き 風邪を直したゲンドウであった

ちよつと番外編1 「ゲンドウ風邪を引く」(後書き)

サブタイトルに関して きずいたかも知れませんが一応説明
サブタイトルはドラマ相棒シーズン8の「右京風邪を引く」からい
ただきました 説明終わります

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9862x/>

新世紀エヴァンゲリオン

2011年10月29日09時08分発行